



# 学校だより

令和6年9月27日(金)

第850号

さいたま市立日進小学校

TEL: 663-6942

## ウェルビーイングと感じる「居場所」づくり

校長 野上 正嗣

十五夜、お彼岸と過ぎ、日中はまだ暑さを感じるものの、朝夕の風にいくらか涼しさを感じられる日が多くなってまいりました。

「心をついに思い出のこる ハッピーエンジョイ運動会」。代表委員会で決めたスローガンのもと、明日の運動会に向けて練習の時から一生懸命取り組みました。また、教職員も「一人ひとりに輝いてもらいたい」という願いを込めて運動会に向けた打合せや準備を重ね、指導、支援にあたってまいりました。各学年、徒競走または団体競技と表現の2種目を実施します。当日は子どもたち一人ひとりの真剣な姿と溢れる笑顔をぜひご覧ください。

さて、1学期に実施した全国学力・学習状況調査で同時に実施する「児童質問紙アンケート」では「自分には、よいところがある」「先生は、あなたのよいところをみとめてくれている」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」「学校に行くのが楽しい」と回答する値が、全国や県と比較して5～10ポイント高い結果となりました。この調査は6年生のみが回答したものであり、肯定的な意見ではない子もいることを真摯に受け止める必要がありますが、日進小には、努力し前向きに頑張ろうとする子どもたちがたくさんいます。私が着任してからの3年間をみても、自他を尊重しお互いを励まし認め合える、いわゆる自己肯定感、自己有用感をもった子が育っています。これは、「自分ならできる」という前向きな気持ちが育っているということであり、たくましく豊かに生きていく力につながると考えます。

では、そんな本校の子どもたちがウェルビーイング（幸福）と感じるのはどんな時でしょうか。上述した回答のように、集団の中で周りから認められたり称賛されたりすることで心地よさを感じるのだと思います。子どもは、安心した「居場所」を求めています。その中で帰属意識が育まれ、自分が集団の中で貢献することでさらに喜びを高めていきます。「人の役に立つ人間になりたい」「人が困っているときは、進んで助ける」と回答する値も高い結果となりました。もちろん、価値観も育った環境も一人ひとり違うので一概には決められませんが、子どもにとって心地よい場所は、家庭であると考えます。また、生活の大部分を過ごす学校・学級で「居場所」を見つけることが重要になります。それには、御家庭と連携し、子どもに役割を与え、与えられた仕事をやり遂げる経験を積ませたり、自ら課題を見つけ解決に向けて取り組んだりすることも必要です。そして、「認める」「褒める」「ともに喜ぶ」機会を増やしていくことが大切となります。安心して楽しい学校生活を送れる心地よい「居場所」づくりに向け、教職員一同力を合わせて励みますので、引き続き御理解御協力をお願いいたします。